

～命のバトンを繋ぎたい～

手のひらに4匹がのるような大きさの頃に、倉敷市保健所から引き取られた子猫たち。目があいてなくて、へその緒もついたままでした。



保健所から「倉敷猫まもりの会」の代表の塩田さんへ。塩田さんからボランティアの皆さんへ。そして終生の住処となる飼い主さんの元へ。命のバトンは繋がられています。

少し大きくなった子たち。ボランティアの皆さんが、1～2か月間、自宅でお世話をしてからの譲渡となります。

